

受賞の言葉

このたびは、日本計画行政学会第20回計画賞において、優秀賞を賜りましたことに、心より厚く御礼申し上げます。

長崎居留地エリアは2つの世界遺産の構成資産（大浦天主堂・旧グラバー住宅）に代表される歴史的資産が数多く遺る、長崎を代表する観光地です。一方で、市中心部に近く、今も多くの人々が暮らす居住地でもあります。住宅は斜面地に広がっており、空き家・空き地の増加、少子・高齢化等の地域課題への対応が喫緊の課題となっております。そこで、令和2年3月、長崎市歴史的風致維持向上計画（通称「歴まち計画」）の国からの認定を契機として、地域の歴史的資産を生かすことで交流人口と関係人口の拡大を図りながら持続可能な地域づくりを推進する「歴史を生かしたまちづくり」に重点的に取り組んでいるところです。今回、表彰頂いた「長崎居留地歴まちランドデザイン、及びアクションプラン」は、地域と行政が時間をかけて協働しながら将来のまちの姿を実現するため、歴まち計画に基づいた地域版の歴史まちづくり計画としてコロナ禍を乗り越えて独自に策定したものです。本計画の策定と実働により、多様な関係者が一体となって歴史を生かしたまちづくりを推進できる体制が整い、少しずつではありますがその成果が目に見え始めております。

今回の受賞を励みにして、今後より一層、歴史を生かしたまちづくりに取り組んで参ります。

最後になりましたが、貴会の今後益々の御発展をお祈り申し上げ、受賞の言葉とさせていただきます。

長崎市

長崎居留地歴史まちづくり協議会